



令和8年度 臨時号

祥豊だより



TEL 075-691-2486

児童がなかまとともに活躍する学校づくり

～学校・保護者・地域が同じ目線で児童を認め心つながる学校を目指して～



「心」も「環境」も

京都 “1” 美しい学校

令和8年9月18日

京都市立祥豊小学校

校長 藤田 尚史



積極的に
配信中♪

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果

4月23日(木)に、本校6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について結果がまとまりましたのでお知らせします。本調査は、国語科・算数科の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査(児童質問紙調査)も実施されています。生活習慣と国語科・算数科の学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果(国語科・算数科)

本校児童は、国語科において情報を整理したり、複数の情報を関連付けて考えたりする力に強みが見られました。また、学級での話し合いや協働的な学びを通して、自分の考えを深める姿勢も育っています。一方で、算数科では数量の関係を捉えたり、考えた理由や根拠を説明したりする力に課題が見られました。今後は、対話や交流を通して考えを深める学習や、学んだことを活用して表現する学習の充実を図り、思考力・判断力・表現力の育成に取り組んでいきます。

『つなげて考え、伝わるように表現する力』

国語科における全体の平均正答率は、全国平均をやや上回りました。特に、文章や資料に書かれている内容を比べたり、結び付けたりしながら考える問題で高い成果が見られました。例えば、「複数のメモを見比べ、共通する内容や必要な情報を整理する問題」では、全国平均を大きく上回る結果となりました。

これは、日頃からペアやグループで話し合い、自分の考えを整理したり、友達の考えとの共通点や違いを見付けたりしながら学習を進めてきた成果であると考えられます。また、ICT 機器を活用して情報を集めたり整理したりする活動も、こうした力の育成につながっていると考えられます。

一方で、「資料を使って自分の考えが相手に伝わるよう工夫して表現する問題」や、「複数の文章や資料の中から目的に合った内容を見付ける問題」には課題が見られました。今後は、相手や目的を意識して伝え方を工夫する活動や、必要な情報を選びながら考えをまとめる活動を充実させ、自分の考えを根拠をもって分かりやすく伝える力の育成を図っていきます。

『数量の関係を捉え、根拠をもって説明する力』

算数科における全体の平均正答率は、全国平均をやや下回る結果となりました。表やグラフから必要な情報を読み取り、その内容を基に考える問題や、図形の特徴や条件に着目して説明する問題では、全国平均を上回る結果が見られました。

一方で、比べる量ともとにする量との関係を基に判断する問題や、分数の大きさを比較し、その理由を説明する問題には課題が見られました。また、答えを求めるだけでなく、「なぜその答えになるのか」を筋道立てて説明する問題でも全国平均を下回る結果となりました。

算数の学習では、問題に示された情報や条件を正しく読み取り、それらの関係を基に考える力が大切です。本校では、友達と考えを交流したり、図や表、式を用いて自分の考えを説明したりする活動を大切にしてきました。今後は、こうした学習をさらに充実させながら、自分の考えを言葉・式・図を使って表現する力や、多様な考え方を比較しながらよりよい考えを見いだす力を育てていきます。また、「なぜそうなるのか」を大切に授業づくりを通して、根拠をもって説明する力や思考力・判断力・表現力の向上を図っていきます。

国
語
科
よ
り



算
数
科
よ
り



～児童質問紙から見える祥豊小の子どもたち～

① 安心して過ごせる学校

先生がよいところを認めている	本校 96.7%	
	全国 91.4%	
友達関係に満足している	本校 91.6%	
	全国 91.1%	

「先生が自分のよいところを認めてくれている」と感じている児童や、「友達関係に満足している」と回答した児童の割合が高い結果となりました。安心して学び、自分らしく過ごせる学級づくりが進んでいることがうかがえます。今後も一人一人を大切にしたい教育活動を進めていきます。

② 対話を通して学びを深める力

友達と協力して課題解決	本校 93.3%	
	全国 91.4%	
話し合いで考えを深める	本校 88.3%	
	全国 85.7%	

「話し合い活動を通して自分の考えを深めることができる」「協力しながら課題解決に取り組んでいる」と回答した児童が多く見られました。日頃から取り組んでいる協働的な学びが、自分の考えを整理したり広げたりする力につながっていると考えられます。

③ ICT を活用した主体的な学び

授業でICT機器を「ほぼ毎日」使用	本校 61.7%	
	全国 20.5%	

授業でのICT機器の活用頻度は全国平均を大きく上回る結果でした。日常的にタブレット端末を活用し、調べる・まとめる・伝える活動に取り組んでいます。今後もICTの特長を生かしながら、主体的な学びを支えていきます。

④ 学んだことを活用する力

算数で学んだことを生活で活用している	本校 78.3%	
	全国 83.2%	
算数は将来役に立つと思う	本校 83.3%	
	全国 91.0%	

「授業で学んだことを生活に生かすことができる」と感じている児童は一定数いるものの、全国平均と比べるとやや低い傾向が見られました。学習内容と日常生活とのつながりを意識できるよう、実生活に結び付けた学習活動の充実を図っていきます。

⑤ 自信をもって挑戦する力

自分によりところがある	本校 75.0%	
	全国 85.6%	

「自分にはよいところがある」と回答した児童は多い一方で、全国平均と比べるとやや低い結果でした。学習や学校生活の中で、一人一人の頑張りや成長を認め合い、子どもたちが自信をもって挑戦できるよう支援していきます。

これからに向けて

今年度の調査では、国語科において情報を整理したり関連付けたりしながら考える力に成果が見られました。また、児童質問紙の結果からも、友達と協力しながら学び合い、考えを深める学習が定着していることがうかがえました。一方で、算数科では数量の関係を正しく捉え、その根拠や考え方を説明する力に課題が見られました。また、自分のよさに対する実感や、学んだことを生活に生かす意識についても向上の余地があることが分かりました。

今後は、これまで大切にしてきた対話的・協働的な学びをさらに充実させるとともに、各教科で学んだ知識や技能を活用し、自分の考えを根拠とともに表現する力の育成に取り組んでいきます。また、一人一人の頑張りや成長を認め、自信や意欲につながる指導の充実を図りながら、子どもたちの思考力・判断力・表現力を育てていきたいと考えています。

全国学力・学習状況調査は、子どもたち一人一人のよさや課題を把握し、今後の指導や支援に生かすためのものです。学校では結果を真摯に受け止め、教育活動の改善に努めてまいります。今後も学校・家庭・地域が連携しながら、子どもたちの健やかな成長と確かな学びを支えていけるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。